

はじめに

高齢化の進行に伴い、介護分野の人材の確保が難しい状況が続いており、介護人材の確保が喫緊の課題となっている。こうした状況の中、「介護キャリア段位制度」は、介護分野の人材育成・定着を図ることを目的に、平成 24 年に制度化され、平成 27 年度からは、厚生労働省の「介護職員資質向上促進事業」として実施されている。

「介護キャリア段位制度」は、介護技能(介護の実践的スキル)を「見える化」し、介護技術評価指標として、介護職員の実践的なスキルを適正に評価しつつ、これを処遇や社会的評価の改善に結びつけていくことをねらいとした人材育成プログラムである。

制度導入から5年を迎えた「介護キャリア段位制度」は、これまでに全国約 16,000 名の評価者(アセッサー)が養成され、現在、この評価指標を用いた介護技術評価の取組みが、各地の介護事業所・施設において進められている現状にある。本制度を活用した取組みは、現場での OJT の実践と評価の取組みを通じ、専門性に対する気づきや発見、技術や指導に対する不安の解消や自信への繋がりといった、業務を遂行する上で重要な要素の数々を生み出していることが、これまでの調査や今回の調査においても、報告されている。

こうした中、本事業では、平成 28 年「介護サービス事業者における OJT を通じた介護職員の人材育成のあり方に関する調査研究事業」として、介護サービス事業者の OJT の取組みの実態調査(アンケート調査及びヒアリング調査)を行い、介護キャリア段位の活用に限らず、当該仕組みを用いない OJT 取組みについても調査をし、OJT を組織的、計画的、継続的に事業所内に取り組みするための秘訣を探った。また、介護キャリア段位取組事業所(認定データ)を分析し、介護キャリア段位を用いた OJT の取組み実態についての分析も行った(検討委員会、報告書第 1 部)。

認知症介護技術評価項目ワーキングでは、平成 26 年度に行った介護キャリア段位制度の介護技術評価のフレームワークを活用し、開発された認知症者への配慮にかかわる介護技術評価項目案について、妥当性検証調査を行い、項目案を取りまとめた。(報告書第2部)。

本事業の実施にあたっては、検討委員会委員長及び認知症介護技術評価項目 WG には筒井孝子氏(兵庫県立大学大学院経営研究科)に委員長及び座長としてご協力をいただき、また、委員会においては介護分野、人事管理等、各分野の専門の方々に委員として参画いただいた。また、調査にあたっては、本制度に関わる介護事業所・施設の皆様にも多大な協力をいただいた。これらご協力いただいた皆様に、厚く御礼申し上げるとともに、本事業の成果、および介護現場における本事業成果を活用した OJT の実践が、介護技術力の定着を介し、着実かつ強固な力となり、組織力強化へと、その効果を発揮していくことを願いたい。

平成 29年3月

一般社団法人 シルバーサービス振興会